
アイ ラブ ユー

長月 タ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイ ラブ ユー

【Nコード】

N3356E

【作者名】

長月 夕子

【あらすじ】

「何故彼はあのような殺され方をしたのか」というテーマです。

(前書き)

死体の描写があります。嫌いな人は避けてください。

いつからこんな関係になってしまったのだろうか。愛しあっていたはずなのに、あの人は事あるごとに私を殴るのだ。そのうち私は外出さえも禁じられ、一日中こうしてあの人が帰ってくることを恐れる為に生きている。がりがりがり。私は台所の刺身包丁をあの人が外出している間ずっと、砥ぎ続けた。

あの人は決まって午後二時に一度帰宅し、私がちゃんと家において決められたとおりベッドで寝ていることを確認する。そしてそのまま書斎に入り、クラシックを流しパソコンの電源を入れる。私はその曲の背後に気配を隠し、半分開いた書斎のドアから入り込む。カーテンの閉じられたその小さな部屋の、私は闇になって彼の背後に立つ。そうして彼の頸動脈を、手にした刺身包丁ですっぱりと切ったのだ。あの人はスプリングラーのように血を噴出しながら、切られた傷口を押さえて立ち上がり、憤怒の顔で私を捉えようとする。規則正しい心臓は、あの人から順調に血を奪っていく。私は包丁を奪われまいとその柄を必死に握り締め、部屋中を逃げ回った。やがてあの人は仰向けにひっくり返った。ペンキの缶をひっくり返したように、血が広がる。あの人の体がかたがたと震え始める。寒い寒いとつぶやく。しかしそれもいつか途絶えた。

どれくらい時間が経過しただろう。クラシックも止まってしまった。私はゆっくりとあの人に近づく。思い切って心臓あたりに刃をつきたててみる。そのまま手当たり次第ざくざくと刺し続ける。腹はもうはじけてしまった。けれど、彼はもう二度と怒らなかった。

顔を上げると、彼の端正な顔が目に入った。そうだ、この顔に心を奪われた。長いまつげ、すっとした鼻、美しい唇。私は何度もその唇に口付けた。やがて彼の体の一部が硬くなってきていることに気付く。私は自分の中心をそこにあてがい、するりと彼を受け入れ

る。冷たい彼の感触にため息がこぼれる。そうして激しく腰を振りながら、腹に手を置くとずぶずぶとめり込む私の指。私は冷たく硬い彼をきつく締め付けた。登り詰める意識の中、気付くのだ。私たちはこうして愛しあうべきだったのだと。もう一度彼の唇にそっと口付ける。私たちが、初めて交わしたキスのように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3356e/>

アイ ラブ ユー

2010年10月11日02時35分発行